

静岡女子短期大学・静岡女子大学

令和6年11月 発行

第44号

静岡女子短期大学 食物学科同窓会
静岡女子大学

〒422-8526 (静岡県立大学内)
静岡市駿河区谷田52-1 (半田富士恵)
Eメール (名簿・朝原幸代)

食物学科同窓会会報

紅葉の季節を迎え、皆様健やかに過ごすごしのことと思います。

新型コロナウイルスによる制限も五類移行によって緩和され、同窓会活動も以前のように戻り、四月の幹事会は恒例のお弁当をいただきながらの懇親会を行うことができました。各クラスの世話をして下さる幹事さん達との会合は、年に二〜三回ですが集まる度に世代を超えた会の絆を感じます。

岩本陽子さんの呼びかけから始まり多くの先輩方と皆様の力で続いてきた食物学科同窓会。私も四代目会長としてこれを引き継いでできる限り続けていきたいと考えてきました。今後については役員間で話し合いを重ねる中で、現状を続けていくことは難しいということが明らかになってきました。

いずれは会員がゼロになる会であることは承知していても、まだまだ多くの会員の支えがあり、活動も変わりなく進んでいると実感がわかないのですが、大きく二つの問題があります。

まず一つは、会員の減少とそれに伴う会費納入額の減少です。試算によるとあと数年で収入と支出のバランスがとれなくなる心配が出てきます。

もう一つは役員の高齢化です。役員はそれぞれが担当を持ち、どれもがスキルを必要とします。今は順調に進められている活動も、誰一人が抜けても成り立たない心配があります。

これらのことから、活動ができなくなつてやむを得ず閉会するのではなく、計画的に閉会に向かつて歩んでいきたいと役員一同の思いが一致いたしました。

令和5、6年度は変わらず活動を続け、七年秋の第23回総会を最後の集いとしてしめくくりたいと思います。

突然の同窓会閉会のお知らせに驚かれたことと思いますが、どうか諸事情をご理解いただきたくよろしくお願ひする次第です。



食物学科同窓会 解散へ

会長 半田富士恵



お疲れ様 でした

近 雅代

食物学科同窓会を閉じるとのことと、連絡い

た。長期間、卒業生同士の情報交換や啓発、生涯学習の場として頑張つて



食物学科同窓会 会報に寄せて

上柳富美子

一九七八年に会報が発行されてから今年で43号となり、静岡女子大の同窓会は、校舎がなくなつても、新入会員が入つてこなくともこの会報によって五十年近く交わりが続いてきました。そして、女子大は生きている。ここを築立つていった方たちが、同窓会や会報によって、その息吹を皆に伝えてくれている。という感動に導かれます。

この43枚の会報の特集は「食育」の最前線で活躍している方たちの体験や、世界文化遺産となった「和食」の情報、東日本大

震災の時には、被災された同窓生からの手紙、老いと食について考えるなど、時宜に応じた「食」のテーマが提示され、私は毎回、幹事の皆様によく考えられたお働きに感心させられて来ました。主題講演は、最初の頃は女子大の先生方が受けもたれましたが、会を重ねるうちに、会員である谷口年江さんや、佐藤宏子さんが受けて下さり、卒業以来蓄積された業績を直接聞くことが出来たのも嬉しいことでした。又、この同窓会によって会長岩本陽子さんをはじめ、短大の幹事の方たちとも親しくなっていました。短大11回生の石川味知子さんの「富士山の恵みの中で食の道を拓いて」と題されたご講演は、今でも深く心に残り忘れることが出来ません。

私は静岡女子大で二十

年過した後、定年までの八年間は県大の食品栄養科学部に所属しました。そこで私にとって初めての男子学生佐藤弘和君を卒業生として迎えました。彼が卒業する時、女子大の食物学科の同窓会報を参考にして、創星会という県大食品栄養科学部の同窓会報を作り、彼がその会長となりました。このことから、食物学科は、短大、女子大、県大とつながっていることを実感させられました。

女子大の同窓会は今回で終わりますが、草薙の丘は、私たちみんなの古里です。一九九三年の同窓会で、自治会の学生から学長の森主二先生が頼まれて作った学生歌を皆で歌ったことを思い出します。それを同封しますが、どうか皆様もこの「草薙の丘」を胸に秘め、これからもお元気で過ごして下さいますようにと願っております。

くさいました歴代会長さん、幹事さん、編集委員の方々お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。かかわってくださった卒業生の方々の顔と名前が浮かんできます。

食物学科の同窓会ができた頃には、まさか開学したばかりの静岡女子大が閉学になるとは思ってもいませんでした。しかし、当時すでに大学の独立も脅かされていたので

静岡女子大学学生歌 草薙の丘

作詞：藤原 正一 (1922年卒)

作曲：藤原 正一 (1922年卒)



- ここ草薙の丘の上 咲くは桜か早乙女か 小くは白梅は紅の 希望開きたつ 春の國
- 危嵐のなかに雲の崖 疾風コート 波様に かがやく輝 三の峰 定まるカモシカ 夏の國
- ケヤキを植ふる 八がこぼれ 大空の輝や今 われが争るぬば能がゆる 燃ゆる情熱 秋の國
- 学びの道は廣くして ぼつと感ぜしがむれば 純白富士が目にしみる ふとのおぼれ 冬の國
- ああなつしの学び舎よ わが輝 わが夜 さようなら かりあるは道標 たいぞ望む学海へ わが生涯の虹の目よ わが人生のハイライト

た時には驚愕いたしました。大学や学問はだれのためにあるのでしょうか。教育の機会均等と言っても、授業料値上げ、奨学金のローン化など後退している部分もあります。しかし、その一見後退している中から次の新しい希望の芽も出てくると言われています。

今後の若い世代に期待するところは大きく、そして何があっても生き続けていきたいと思います。

☆上柳先生から多額のご芳志をいただきました

同窓会の現状とこれから

会計について

昭和55年（1980年）、短大卒生649名、大学卒生621名、計1270名で始まった同窓会。平成27年頃より減少し令和6年1月時点で980名（短大433名、大学547名）となりました。設立時より290人減少しています。（表参照。会員数は会報送付数より算出）

総収入金額の基礎をなす会員会費と前年度繰越金は平成27年頃より共に減少し、令和3・4年度の決算では次期繰越金が30万円を切る事態となり定期預金100万円の内50万円を解約。5・6年度予算に繰り入れることになりました。

総支出金額は記念総会がある年度はその前年度に準備の為の支出が発生し、会報も通常四面が六面の記事となり年度ごとの支出額を比べたり予想することは難しいところですが、ここ数年来の物価値上がりに伴い会議に掛かる費用・会報の印刷代・会報送付の切手代・交通費等、総支出額は増加が見込まれます。

令和5・6年度の決算の繰越金額は今の時点では未定ですが、その繰越金額に残りの定期預金50万円を解約した金額を足して令和7年に閉会総会を開催し、閉会に伴う最後の会報45号の発行と送付費用、最終の会計報告の送付等の費用に使う予定です。

況などを小冊子という形で発行しました。三号（昭和57年11月）から現在の形式となりました。現在は、各回の幹事が持ち回りで編集委員となり活動してきました。同窓生、先生方へ発送してきた会報も1300部から980部程度となりました。今回の会報で同窓会の現状と閉会をお知らせし、来年度の総会の報告を最終号とします。

会報について

同窓会会報は、会報準備号に始まり、一号、二号は、年一回名簿を主体に母校の様子、同窓生の近

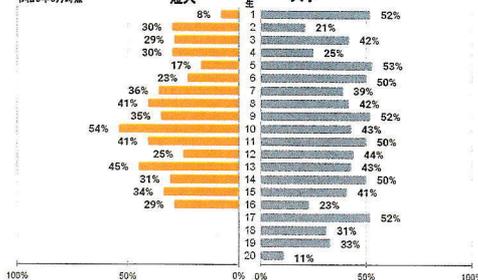


会員名簿について

引き続き「おとり会」で管理します。住所変更等ありましたら、左記の名簿係またはおとり会のクラス幹事までご連絡ください。（尚クラス幹事は変更内容を名簿係にお知らせください。）変更はおとり会ホームページ上でも受け付けています。名簿係 赤堀美里（大学十三回）

引き続き「おとり会」で管理します。住所変更等ありましたら、左記の名簿係またはおとり会のクラス幹事までご連絡ください。（尚クラス幹事は変更内容を名簿係にお知らせください。）変更はおとり会ホームページ上でも受け付けています。名簿係 赤堀美里（大学十三回）

【会費納入状況】令和6年6月時点



会員数に対する会費納入済み人数の割合を見ると、令和元年は54%、令和六年は36%と減少しています。原因としては、高齢による払い込み困難、施設入居等で連絡がつかない、ご逝去など、五年程で急減しており、今後もこの傾向は加速すると思われます。

閉会総会

令和7年11月15日(土) 開催

場所：ホテルアソシア 静岡

クラス会だより

古希のクラス会

大妻八回 園田圭子

5年ぶりのクラス会を名古屋で開催しました。五月晴れの中17名の参加でした。泊まりが恒例でしたが、今回は日帰り設定し、遠方や観光したい方には前泊もありという2本立でした。



当日の名古屋駅集合では、歓声と共におしゃべり開始。ランチのイタリアンを頂きながら、おしゃべりも、おしゃべりと笑いは止まりません。食後は、皆さんの希望が多かった朝ドラ「虎に翼」のロケ地「名古屋市政資料館」を訪問。

古希を迎えての再会でしたが、50年の月日を一気に巻き戻せたひと時でした。本当に名残惜しく、次回は熱海で会うことも決定。

今回は、準備段階からLINEでも連絡し合うようになり、慣れない操作を「脳トレ」と楽しみました。今では花便り、料理の写真をアップするなど、食物学科らしいやり取りをしています。今どきのツールを使いこなして、これからも右脳フル回転。すべてに感謝です。

突然のお別れ

短大八回 江部 弘美



故 大社さんと

大社ゆきさんは食物学科卒らしく「食」を大切に感謝して、幹事として17年出席も楽しんでいました。3月31日生まれで同級生で一番若く、母上に感謝して野菜作り、薔薇を愛して野菜作りを大切にしました。孫を愛し自慢していました。4月11日交通事故で亡くなりました。84歳になったばかりでした。私たち短大食物学科卒の友だちはゆきさんのこと思い出して「食」を大切に

編集委員

- 五條 淳子（短大十回）
- 八木 文子（短大十五回）
- 土本 久恵（短大十五回）
- 宮武紀子（大学四回）
- 朝原 幸代（大学六回）
- 半田富士恵（大学十回）
- 竹田 規代（大学十回）
- 赤堀 美里（大学十三回）
- 青木 弘子（大学十三回）
- 津島 麻里（大学十五回）
- 西田 矛（大学十一回）

おとり会ホームページ

<https://dousokai.site/ootorikaihp/>
静岡県立大学のホームページからもアクセスできます



タイプで作った

短大六回 海野とぎ子

食物学科同窓会は一回生の岩本陽子さんが立ち上げました。岩本さんは秦先生の勧めで退職後「会員の地域での活躍を高める」をスローガンに活動を始め、まず地区別名簿の作成を行いました。

当時、私は活字の和文

タイプを習得したところで、原稿作りをしたのですが、結婚適齢期の会員の住所が移動が多く訂正ばかりで苦労しました。名簿がようやく出来上がった頃ワープロが出始めました。

同窓生の皆様、同窓会会員名簿を活用して近所に住む同窓生との交流を深め、充実した毎日を送り下さることを願ってやみません。